

調査対象	若き林業従事者 小森胤樹(こもりつぐき)	URL	http://www10.ocn.ne.jp/~oppara/index.html
活動地域	郡上市八幡町	調査員	松井、山崎、森川、小川、杉野、近藤、佐藤
取材日	2010/8/13	レポート作成	杉野賢治
<p>林業の仕事がやりがいがあり、とても意義のある重要な仕事であって、かつ十分稼げる仕事にしていかななくてはならない。そうすることが林業活性化の近道である。</p>			
<p><活動内容></p> <p>①林業全般 ②森林活動ガイド ③ちょこっと林業</p> <p>①国有林の伐採・搬出も請け負う。 ②森の健康診断リーダー、CONEリーダーとして活躍。 ③郡上の間伐材を割り箸や薪にして、ちょこっとお金になるビジネス。</p>			
<p><モットー(何を大切にしているか)></p> <p>理念の伴った生き様を貫く。 里山は整備するものではなく、人が住めるようになればいい。人が暮らせば山が手入れされ、川が守られる。結果として、都会の人のためになる。</p>			
<p><設立から現在に至るまでに変化したこと></p> <p>学生の頃には考えもなかった仕事をしている。仕事が環境を守っているという自負が宿ってきたこと。</p>			
<p><連携している団体・専門家・自治体など></p> <p>○musublog(長良川流域ブログコミュニティ 地域ブログを通して林業のあり方をつぶやく) ○郡上わりばしプロジェクト実行員会(事務局長として) ○郡上市森づくり推進会議(委員)</p>			
<p><現在直面している課題></p> <p>山から情報発信する人が少ない。今は自分がそれを担うしかない。国の施策に対して、現場レベルの意見を上に上げる活動をもっとしていかななくてはならないこと。</p>			
<p><今後やってみたいこと></p> <p>稼げる田舎をつくりたい。そのために、自分は先陣を切って進みたい。 「林業をやっている人はカッコイイ」と言わせたい。 フォレスターという人材を育て、国の根幹となる国土保全をしっかりと管理させる。それにはかなりの権限を与える。</p>			
<p><そのためにはどんな情報・人脈が必要か></p> <p>現場の人間が国の施策に対していろいろな意見を言うことができるようにする必要がある。そのための全国的な組織づくりの人脈形成が必要だと考える。</p>			
<p><チームオリジナルの質問></p>			
質問内容:	流域との関わりは？		
答え:	日本の山を良くしたいと思い、林業に転職した。しかし、山だけ、林業だけの復活はあり得ない。山に付随する中山間村のあり方、つまりそこで安心して生活できる仕組みづくり、そしてそれを支える地方自治、ひいては国のあり方が今後問われていくと思う。そのため、物質循環や環境問題、利害関係も含め、地域全体を考えるには流域という視点でものを見ることが重要であると考えている。山側の意見を伝えるため、河川関係の集まりにも積極的に参加していこうと考えている。		



小森さん。郡上の山にて

<執筆者の感想(心に残ったこと)>

小森さんは8年前に大阪からIターンしてきた。郡上に来た頃、「俺が日本の林業を変えてやる」と意気込んでいたそう。それが山村で暮らし、家族を持ち、仕事を極めていくにつれて自然体に変化してきたという。取材をした時の小森さんは、堂々と落ち着いた感じだった。

自分がIターンでやってきて、数々の実践をこなした経験から、「365人の人が1日田舎へ来るよりも、1人の信念を持った人が365日田舎で暮らしてほしい」と話す。

小森さんの言葉からは、「自分たちが田舎を選んでやってくるからには、田舎(の人たち)も自分たちを選ぶ権利がある」という、ある種の厳しさを感じた。小森さん自身はそこを自分の努力で乗り越えている。そのくらいのやる気と努力なしでは、田舎暮らしも成功しないということだ。

今回の取材では、仕事の細かい内容については話さなかったが、そこに小森さんの絶対的な自信を垣間見た。技術論よりも、山仕事の哲学を心に置いて頑張っている小森さん。自然と技術は一流になってくるのだろう。

山仕事に従事する人に共通の、後継者問題について聞いてみたが、小森さんはあまり心配していない様子だった。というのも、自身が理念の伴った生き様を仕事に映していれば、後継者はやってくるし、仕事はその若者を育てるのだという。地に足を着けて実践している本物だけが語れる言葉だった。

「学生の頃は、バイトして稼いだ金で遊ぶことしか考えていない半端者だった」と、親しみのある笑顔で笑う小森さん。Iターン者が見習うべき志と行動力を兼ね備えた山男だった。